



努力はやがて実を結ぶ

校長 友生 雅夫

9月も残すところ10日を切りました。ここ数日は、「過ごしやすい」と思う時間帯があります。相変わらず昼の時間帯は、暑さを感じますが、少し季節が進んだと感じています。21日は、奉仕作業と資源回収がありました。運動会が今年から11月開催となり、今年から時期を1カ月ほどずらしました。校庭やプール、学校の外側など草が伸びていた所がありましたが、保護者の方々の協力をいただき、作業を進めていきました。1時間30分ほどでしたが、学校が見違えるようにきれいになりました。これで、子どもたちも、わたしたち職員も新たな気持ちで生活が送れそうです。本当にありがとうございました。

さて、東京で世界陸上が開催されました。34年ぶりの開催ということで、盛り上がりましたが、結果が出た選手、出なかった選手のインタビューを聞く中で、いろいろと感ずることがありました。注目選手として、メダルが期待されたり、入賞が期待されたりする選手は、みんながその競技を見たり、応援したりします。ただ、大会に入る前は、それほど注目されていなかった選手の活躍が多かったと感じます。

男子400mで入賞した中島佑気ジョセフ選手は、世界ランキング上位の選手が欠場し、世界陸上に出場できることになったそうです。もともと世界陸上やオリンピックへ出場した経験はありましたが、個人で予選を突破するほどの結果は残していませんでした。2023年11月にアメリカに渡り、南カリフォルニア大学で世界選手権やオリンピックのメダリストたちと練習を重ねたそうです。「世界のトップレベルの選手が集まる中で自分がどこまでできるのか試したい」という思いが練習内容を変えていったそうです。

もちろん、けがもありましたが、世界陸上の本番では、400mの日本記録を大幅に更新し、準決勝、決勝でも44秒台で走り、見事6位入賞を果たしました。解説者もここまで活躍するとは想像できていなかったようです。でも、自分の環境を変え、練習を信じ、努力を続けたことがこの結果につながったことがわかりびっくりさせられました。

女子マラソンで7位に入賞した小林香菜選手も高校や大学で活躍してはいませんでした。ただ、卒業時に「実業団で走りたい」と自分を売り込み、今の会社に入りました。そこで本格的に練習し、世界陸上代表に選ばれ、今回の結果につながったそうです。インタビューの中で「練習がきつすぎて、合宿が終わったときがうれしすぎて」という言葉がありました。想像を超える練習の積み重ねが結果につながったと思います。

子どもたちも、結果を求めてしまいがちです。なかなか結果がでないと、「本当にこのやり方でいいのか」と迷い、あきらめてしまいがちです。そんなとき、周りの大人は子どもたちを見守り、支え、励ますことが必要だと感じました。自分を信じて努力を続けることができるよう子どもたちを支えていきたいと思います。